

2024年8月 (No.422)

主な内容とページ

「AI 景気」の突出と好調だった「車用」の陰り	1
地域別では米中が突出	2
大ジャンプのメモリ	2
日本の半導体輸入、再び 1 兆円台回復	3
注意が必要、品不足、ブームの反動	6
世界半導体企業 41 社、第 2 四半期業績結果	7
米半導体企業第 2 四半期結果、より好調	11
半導体、電子デバイスそしてエレクトロニクス(SRL だより).....	14

「AI 景気」の突出と好調だった「車用」の陰り

半導体市場は好調だった自動車向けに陰りが出る一方、AI ブームは突出、大きく変化している。

1. AI ブームは、エヌビディアの AI プロセッサを初め、関連高速メモリの需要急増。それが既存のメモリ市場の需給を引き締め、市場全体の伸びにつながるなど活況をもたらしている
2. 過去 2 年の低迷期でも好調だった自動車向け需要は、EV(電気自動車)の見直し、中国 EV メーカーの躍進などから停滞、一部は落ち込みと様相は一変した。
3. 日本市場は、自動車向けの需要下支えで堅調だったが、市場環境は激変。円安による輸入価格の上昇と最近の為替変動、品不足時期の過剰在庫の消化に手間取るなど課題に直面。成長の確保に正念場を迎えている。

半導体、電子デバイスそしてエレクトロニクス

某社あるいは某団体が名称の内容を「半導体」から「エレクトロニクス」とか「電子デバイス」あるいは「電子部品」の表現に変える例がみられた。例えば「半導体商社」から「エレクトロニクス商社」と称するものだが、極論すれば「半導体」「エレクトロニクス」「電子部品」同じようなもの。余りこだわることはないと思うが。

半導体あるいは電子部品はシステム、コンピュータなど機器の「素材」であり、優れた機器を作るには、優れた半導体、電子部品が不可欠。とくに半導体はソフトウェアを含め機能・性能・価格で革新・革命的な進歩をもたらす「重要基盤技術」だろう。全てを抱合する大きな世界で、エレクトロニクスの基盤だ。

大きな違いは家電やコンピュータのような「最終商品」か、それとも「素材」か。かつて電卓、電子時計、ゲーム、携帯電話など半導体メーカー自ら手掛けたがうまくいかなかった。最終商品の売り方、普及は別の世界。最近の AI(人工知能)は、技術的な基盤は揃って来たようだが、大型商品になるにはこれからだ。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2024 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2024 年 8 月(毎月 1 回発行)第 35 巻 8 号(通巻 422 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2024

SRL Monthly Report

August 2024, No.422

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)